Canon

SPEEDLITE
600EX-RT
SPEEDLITE
600EX

使用説明書

Canon
600EX-RT SPEEDLITE
600EX SPEEDLITE

はじめに

キヤノンスピードライト600EX-RT/600EXは、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光/外部調光に対応した、EOS用大光量多機能ストロボです。カメラのアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンストロボ（通常撮影）、ワイヤレス撮影時のマスターストロボ、スレーブストロボの３つの機能を備えるとともに、EOS-1Dシリーズのカメラと同等の防塵・防滴性能を備えています。

なお、600EX-RTは、電波通信と光通信によるワイヤレスストロボ撮影機能を搭載しています。600EXは、光通信によるワイヤレスストロボ撮影機能のみを備えています。

● **カメラの使用説明書もあわせてお読みください。**

ご使用になる前に、この使用説明書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。

カメラとの組み合わせについて

● EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ

・「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽にストロボによる自動調光撮影を行うことができます。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

・E-TTL II/E-TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラ（Aタイプカメラ）と組み合わせたときは、「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽にストロボによる自動調光撮影を行うことができます。

・**TTL自動調光方式のEOSフィルムカメラ（Bタイプカメラ）との組み合わせについては、116ページを参照してください。**

＊ **本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。**

章目次

電波通信機能を備えていない「スピードライト600EX」使用時は、4章のワイヤレス撮影はできません。ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、5章を参照してください。

目　次

各部の名称

* スピードライト600EXは備えていません（機能しません）。

〈LINK〉
電波通信確認ランプ*
（p.53、55、58、60、72）
表示パネル
ファンクション
ボタン2
ファンクション
ボタン1
〈⇆〉
ワイヤレスボタン／
連動撮影ボタン
（p.52、78／71）
〈MODE〉
発光モードボタン
（p.18、31、33、36、
37、58、64、65、
82、88、89）
〈ϟ〉
充電ランプ／
テスト発光ボタン
（p.16、58、82、95）
取り付け脚ロックレバー
（p.15）
ロック解除ボタン（p.15）
防塵･防滴アダプター
カラーフィルター
ホルダー取り付け部
（p.39）
バウンス角度指標
（p.27、28）
〈PUSH〉バウンスロック
解除ボタン（p.27、29）
ファンクションボタン3
電池室ふた（p.14）
電池室ふたロックレバー
（p.14）
ファンクションボタン4
電源スイッチ（p.16）
〈ON〉　：電源入
〈LOCK〉：ボタン/ダイヤルロック
（電源入）
〈OFF〉　：電源切
調光確認ランプ（p.18、58、82）
〈◎〉選択ダイヤル
〈◉〉選択/設定ボタン
LINK
600EX-RT
SPEEDLITE
45
60
75
CLEAR
MODE
SEL/SET
LOCK ON
OFF
LOCK

表示パネル

E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光（p.19）

Zoom：ズーム表示（p.29）
WP：ワイドパネル+バウンス警告
WIDE：照射角外警告

A：自動設定
M：手動設定（p.29）

ETTL：E-TTL II/E-TTL 自動調光
TTL：TTL自動調光

：標準
：ガイドナンバー優先（p.100）
：配光優先（p.100）
：バウンス（p.27）
：下7°バウンス（p.29）
：カラーフィルターホルダー装着（p.39）
：市販カラーフィルター使用警告（p.40）
：温度上昇（発光制限／p.106）

：調光補正（p.22、44）

調光補正量

調光レベル

焦点距離（照射角／p.29）

：ハイスピードシンクロ（p.25、44）
：後幕シンクロ（p.26、44）

：電子音（p.99）

：画面サイズ対応自動ズーム（p.20、98）

C.Fn：カスタムファンクション（p.95）

F：絞り数値（p.37）

距離表示（p.95）
m：メートル表示
ft：フィート表示

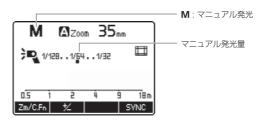
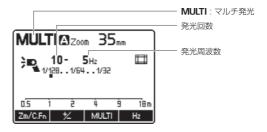
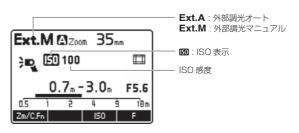
P.Fn：パーソナルファンクション（p.101）

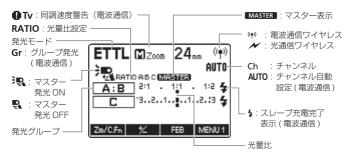
調光連動範囲（p.18）

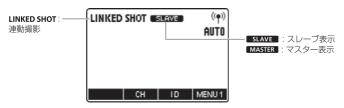
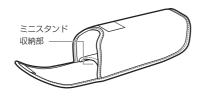
FEB順序（p.96）

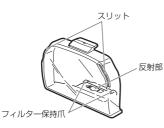
：FEB（p.23、44）

- 画面は表示例です。状況に応じた部分のみ表示されます。
- ファンクションボタン1～4の上に表示される〈Zm/C.Fn〉〈±〉などは、設定状況に応じて表示が変わります。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます（p.17）。

マニュアル発光（p.31）

マルチ発光（p.33）

外部調光オート／マニュアル（p.36／37）

電波通信ワイヤレス撮影／光通信ワイヤレス撮影（p.47／75）

● マスターストロボ

● スレーブストロボ

連動撮影（p.70）

付属アクセサリー

ストロボケース

ミニスタンド
（p.48、76）

カラーフィルターホルダー
SCH-E1
（p.39）

カラーフィルター
ホルダーケース

カラーフィルターセット
SCF-E1
（2種類／p.39）

カラーフィルターケース

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

◎	：選択ダイヤルを示しています。
◉	：選択／設定ボタンを示しています。
⏱4／⏱6／⏱16	：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態が4秒間／6秒間／16秒間保持されることを示しています。
（p.＊＊）	：参照ページを示しています。
❶	：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
📝	：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- カメラとストロボの電源が入っていることを前提に操作方法を説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、カメラとストロボに使われている絵文字を使用しています。
- カメラのメニュー機能／カスタム機能、およびストロボのカスタム機能／パーソナル機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。
- 本文中のイラストは、スピードライト600EX-RTで説明しています。

1

使用前の準備と簡単な撮影

　この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

連続発光に関するご注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続発光は20回までにしてください。20回連続発光したときは、10分以上休止してください。
- 20回以上連続発光したあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限中は、発光間隔が強制的に約8〜20秒になります。そのときは15分以上休止してください。
- 詳しい内容については、106ページ「温度上昇による発光制限について」を参照してください。

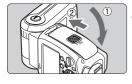
電池を入れる

電池は、単3形電池4本を使用します。

1 ふたを開ける

- ①のように、ロックレバーを左にスライドさせ、ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。

2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「−」をまちがえないように電池を入れます。
- 電池室の側面の溝は、「−」を表しています。暗い場所で電池を交換するときに便利です。

3 ふたを閉める

- 電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。

➡「カチッ」と音がして、電池室ふたがロックされます。

発光間隔と発光回数

発光間隔		発光回数
クイック発光	通常発光	
約0.1〜3.3秒	約0.1〜5.5秒	約100〜700回

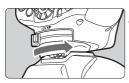
- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です（p.16）。

- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により、接触不良を起こすことがあります。
- 連続発光後に電池を交換するときは、電池が熱くなっていることがありますので、ご注意ください。

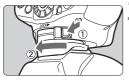
- 〈（電池マーク）〉が表示されたときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形のニッケル水素電池、リチウム電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す

1 取り付ける

- ストロボの取り付け脚がアクセサリーシューの**奥に突き当たるまで**、差し込みます。

2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。

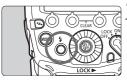
➡「カチッ」と音がしてロックされます。

3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、取り付け脚ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから外します。

ストロボの取り付け／取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる

1 電源スイッチを〈ON〉にする

➡ 充電が始まります。

2 充電を確認する

- 充電ランプの状態が、**消灯→緑色**（クイック発光可能）→**赤色**（フル充電）の順に変わります。
- 充電ランプ（テスト発光ボタン）を押すと、テスト発光を行うことができます。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態（フル充電前）でストロボ撮影ができる機能です。

ガイドナンバーは、フル発光時の1/2～1/6になりますが、近距離撮影で発光間隔を短くしたいときに有効です。

ドライブモードは、1枚撮影に設定してください。連続撮影、FEB、マニュアル発光、マルチ発光が設定されていると、クイック発光できません。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと、自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。

なお、電波通信ワイヤレス撮影のマスターストロボのときや（p.59）、連動撮影のときは（p.73）、オートパワーオフまでの時間が5分になります。

発光モードが〈**TTL**〉のときは、クイック発光できません。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます（ファンクションボタン1〜4の上に表示される〈Zm/C.Fn〉〈±〉などは表示されません）。

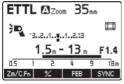
表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが12秒間照明されます。機能設定中のときは、設定が終わるまで照明が行われます。

なお、通常のストロボ撮影、およびワイヤレス撮影のマスターストロボ、連動撮影のマスターのときは、表示パネルが緑色に照明されます。スレーブのときは、オレンジ色に照明されます。

- カメラの4／6／16タイマーが働いているときは、テスト発光できません。
- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切り、電池を取り出してから1分以内に電池を交換してください。
- 連続発光により、発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 電源スイッチが〈LOCK〉の位置でもテスト発光を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネル照明が点灯します。
- 充電完了時に電子音を鳴らすことができます（C.Fn-20／p.99）。
- 連続撮影時に充電ランプが緑色の状態で（クイック）発光させることができます（C.Fn-06／p.97）。
- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます（C.Fn-01／p.95）。
- 表示パネル照明の点灯時間を変更することができます（C.Fn-22／p.100）。
- 表示パネル照明の色を変更することができます（P.Fn-02〜04／p.101）。

全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉（プログラムAE）、または全自動に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。

1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈ETTL〉に設定します。
- 〈MASTER〉〈SLAVE〉が表示されていないことを確認します。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➡ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈⚡〉が点灯していることを確認します。

3 撮影する

- 被写体が調光連動範囲に入っていることを確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影されます。
- ➡ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。

- E-TTL II対応のカメラに取り付けた場合でも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。
- 調光確認ランプが点灯しなかったときや、カメラの液晶モニターで画像を確認して被写体が暗い（露出アンダーの）ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈A⁺〉〈□〉〈CA〉の撮影モードを示しています。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈**Tv**〉(シャッター優先AE)、〈**Av**〉(絞り優先AE)、〈**M**〉(マニュアル露出)、に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

Tv	任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。 ● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するよう、設定を変更してください。
Av	任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。 夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる、スローシンクロ撮影になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で、標準露出となります。 ● 暗い場所では、シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。 ● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。シャッター速度が点灯するよう、設定を変更してください。
M	シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体は、ストロボ光で標準露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

● 〈**DEP**〉〈**A-DEP**〉で撮影したときは、〈**P**〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
P	自動設定(1/X〜1/60秒)	自動設定
Tv	手動設定(1/X〜30秒)	自動設定
Av	自動設定(1/X〜30秒)	手動設定
M	手動設定(1/X〜30秒、Bulb)	手動設定

● 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

画面サイズ対応自動ズームについて

EOSデジタルカメラには、3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角は、それぞれの機種で異なります。本機では、各EOSデジタルカメラの画面サイズを自動認識して、20～200mmの範囲でレンズの有効撮影画角に最適な照射角を自動設定します。

対応カメラに装着したときは、表示パネルに〈▭〉が表示されます。

画面サイズ対応自動ズーム機能が働かないようにすることができます（C.Fn-09／p.98）。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉〈ϟ〉のときに、自動的に働きます。

対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

AF補助光について

被写体が暗すぎたり、コントラストが低くAFでピントが合わないときは、ストロボに内蔵されたAF補助光が自動的に光り、AFでピントを合わせやすくします。600EX-RT/600EXのAF補助光は、すべてのEOSカメラのAFフレームに対応しています。AF補助光の対応画角は、焦点距離28mm以上で、有効距離は表のとおりです。

位置	有効距離（約・m）
中央	0.6～10
周辺	0.6～5

2

ストロボ撮影応用編

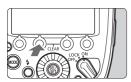
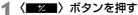
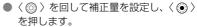
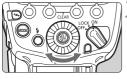
この章では、ストロボの機能を活用した応用的な撮影方法について説明しています。

カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の「バウンス（p.27、29）」「ワイドパネル（p.30）」「カラーフィルター（p.39）」以外の操作はできません。カメラの撮影モードを**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**（応用撮影ゾーン）にすると、この章のすべての操作を行うことができます。

調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

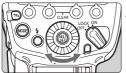
1 〈 ⁺⁄₋ 〉ボタンを押す

- ファンクションボタン2〈 ⁺⁄₋ 〉を押します。
- ➡〈 〉が表示され、補正量が反転します。

2 補正量を設定する

- 〈 ◎ 〉を回して補正量を設定し、〈 ◉ 〉を押します。
- ➡ 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときは、補正量を「±0」に戻します。

- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を設定したときは、ストロボの設定が優先されます。
- ボタンを押さずに〈 ◎ 〉で直接、調光補正量を設定することができます(C.Fn-13／p.99)。

FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB（Flash Exposure Bracketing）撮影といいます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

1 〈FEB〉ボタンを押す

- ファンクションボタン3〈FEB〉を押します。
- ➡〈FEB〉が表示され、FEBレベルの表示が反転します。

2 FEBレベルを設定する

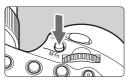
- 〈◎〉を回して FEB レベルを設定し、〈◉〉を押します。
- ➡ FEBレベルが設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正と併用するときは、調光補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。± 3段を超えるときは、調光レベルの端が〈◀〉または〈▶〉になります。

- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて撮影することができます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます（C.Fn-03／p.96）。
- FEBの撮影順序を変更することができます（C.Fn-04／p.96）。

FEL: FEロック

FE（Flash Exposure）ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

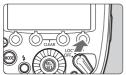
表示パネルに〈**ETTL**〉が表示されている状態で、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押します。〈M-Fn〉ボタンのないカメラは、〈FEL〉または〈✱〉（AEロック）ボタンを押します。

1 被写体にピントを合わせる

2 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏲16）

- 被写体をファインダー中央において〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な発光量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に「**FEL**」が0.5秒間表示されます。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な発光量を記憶します。

- FEロックを行ったときに、適切な露出が得られないときは、ファインダー内の〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいたり、絞りを開いて再度FEロックを行ってください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げて再度FEロックする方法もあります。
- ファインダー視野に対して被写体が小さいと、FEロックの効果が得られないことがあります。

ハイスピードシンクロ

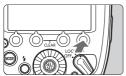
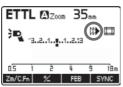
　ハイスピードシンクロ機能を使用すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。特に日中シンクロで、被写体の背景をぼかしたポートレート撮影を、絞り優先AEで行いたいときに有効です。

〈〉を表示させる

- ファンクションボタン4〈SYNC〉を押して、〈〉を表示させます。
- ファインダー内で〈ϟH〉の点灯を確認します。

- 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラと組み合わせたときは、電波通信によるワイヤレスハイスピードシンクロ撮影はできません（p.51）。
- ハイスピードシンクロ撮影では、シャッター速度が高速になるほど、ストロボ光の到達距離が短くなります。調光連動範囲は、表示パネルで確認してください。

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度以下に設定したときは、ファインダー内に〈ϟH〉は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン 4〈SYNC〉を押して〈〉を消します。
- マルチ発光のときは、ハイスピードシンクロはできません。

⏩ 後幕シンクロ

低速シャッターで後幕シンクロを行うと、車のライトなど、動いている物の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する（シャッターが閉じる）直前にストロボが発光します。

〈⏩〉を表示させる

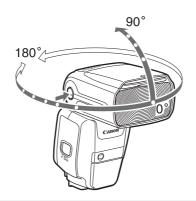
- ファンクションボタン4〈SYNC〉を押して、〈⏩〉を表示させます。

- カメラの撮影モードを「**buLb**」にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4〈SYNC〉を押して〈⏩〉を消します。
- 発光モードが〈**ETTL**〉のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- ワイヤレスストロボ撮影のときは、後幕シンクロはできません。

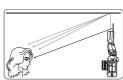
バウンス

　ストロボ発光部を壁や天井に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体の背後の影が緩和されて、より自然な感じになります。これをバウンス撮影といいます。

発光部の向きを決める

● 図のように、〈**PUSH**〉ボタンを押しながら、発光部を回転（バウンス）させることができます。バウンス時は、表示パネルのストロボマークが、〈〉になります。
● 照射角が〈A〉（自動設定）に設定された状態で（p.29）、発光部を回転させると、照射角が50mmに固定され、表示パネルに〈---〉と表示されます。
● 照射角は手動で設定することもできます（p.29）。

● バウンスさせる壁や天井までの距離が離れていると、反射光が届かずに光量不足になることがあります。
● 撮影した画像が暗いときや、調光確認ランプが点灯しないときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラのときは、ISO感度を上げる方法もあります。
● バウンスさせる壁や天井は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けることがあります。

キャッチライト撮影

キャッチライトパネルを使うと、人物の目に光を写し込み、表情をより生き生きとさせることができます。

1 **発光部を上方向90°にする**

2 **ワイドパネルを引き出す**

● ワイドパネルの中央にある突起を引き上げます。

➡ キャッチライトパネルも同時に引き出されます。

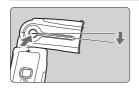
3 **ワイドパネルを押し戻す**

● ワイドパネルだけを押し戻します。

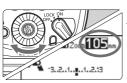
● バウンス撮影と同じ方法で撮影します。

● 発光部の位置は正面・上方向90°にしてください。発光部を左右に回転させるとキャッチライト効果を得ることができません。

● 人物の目にキャッチライトを効果的に入れるために、被写体から1.5m以内の距離で撮影してください。

近距離ストロボ撮影

〈**PUSH**〉ボタンを押しながら発光部を下方向7°の位置にすると、約0.5～2mの範囲にある、撮影距離が近い被写体を撮影することができます。
下方向7°の位置にしたときは、表示パネルのストロボマークが〈 〉になります。

Zoom: 照射角の設定

照射角の設定方法には、「自動設定」と「手動設定」があります。自動設定は、撮影レンズの焦点距離に応じて、照射角が自動的に調整されます。手動設定は、20～200mmの範囲で照射角を任意に設定することができます。

1 〈Zm/C.Fn〉ボタンを押す

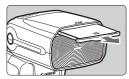
- ファンクションボタン1〈Zm/C.Fn〉を押します。
- ➡ 照射角の数値が反転します。

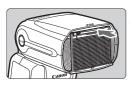
2 照射角を設定する

- 〈 〉を回して照射角を設定し、〈 〉を押します。
- 〈A〉は自動設定、〈M〉は手動設定です。

- 照射角を手動設定するときは、撮影した写真の周辺が暗くならないように、撮影する画角よりも広い照射角を設定します。
- 焦点距離が20mmより短いレンズを装着したときは、表示パネルに警告〈❶ WIDE〉が表示されます。なお、撮像画面サイズがフルサイズ以外のカメラを使用したときは、実際の撮影画角が20mmレンズの画角より広いときに、警告〈❶ WIDE〉が表示されます。
- カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続して撮影するときは、照射角を手動で設定してください。

ワイドパネル

ストロボに内蔵されたワイドパネルを併用すると、14mmの超広角レンズに対応したストロボ撮影を行うことができます。

1 ワイドパネルを引き出す

- ワイドパネルの中央にある突起を引き出します。

2 キャッチライトパネルを押し戻す

- EF15mm F2.8フィッシュアイ、EF8-15mm F4LフィッシュアイUSMの画角には、対応していません。
- ワイドパネル使用時は、照射角の設定はできません。

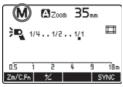
- ワイドパネルを使用してバウンス撮影を行うと露出不足になりやすいため、表示パネルに警告〈❶ WP〉が表示されます。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。

M: マニュアル発光

フル発光（1/1）から1/128発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することができます。

市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを〈**Av**〉または〈**M**〉に設定することをおすすめします。

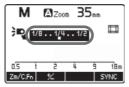
1 発光モードを〈M〉にする

● 〈MODE〉ボタンを押して、〈**M**〉に設定します。

2 発光量を設定する

● ファンクションボタン2〈 ⁺⁄₋ 〉を押します。

➡ 発光量レベルが反転します。

● 〈◎〉を回して発光量を設定し、〈◉〉ボタンを押します。

● シャッターボタンを半押しすると、撮影距離の目安と絞り数値が表示されます。

ストロボメータードマニュアル撮影について

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近い撮影で有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉にします。
- ストロボの発光モードを〈**M**〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内の中央部スポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈FEL〉ボタンを押す（16）

➡ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
➡ ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。

6 撮影する

- 標準反射板を取り除いて撮影します。

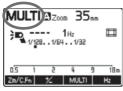
ストロボメータードマニュアル撮影は、EOS-1Dシリーズ以外はできません。

MULTI: マルチ発光

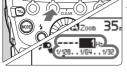
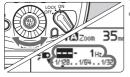
低速シャッターでマルチ発光を行うと､一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のようにして、重ねて撮影することができます。

マルチ発光では、発光量、発光回数、発光周波数（1秒間の発光回数＝Hz）を設定します。最大連続発光回数については、35ページを参照してください。

1 発光モードを〈MULTI〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈**MULTI**〉に設定します。

2 項目を選ぶ

- 発光量は〈±〉、発光回数は〈MULTI〉、発光周波数は〈Hz〉が表示されているファンクションボタンを押します。
- ➡ 押したボタンの項目が設定できるようになります。

3 数値を設定する

- 〈◎〉を回して数値を設定し､〈◉〉ボタンを押します。
- 手順2、3を繰り返して、発光量、発光回数、発光周波数を設定します。

シャッター速度の求め方

マルチ発光では、連続発光が終わるまでシャッターが開いているように、以下の計算式から求めたシャッター速度をカメラに設定します。

発光回数÷発光周波数＝シャッター速度

例えば、発光回数10（回）、発光周波数5（Hz）で撮影する場合は、シャッター速度を2秒以上に設定します。

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は10回までにしてください。10回撮影したときは、15分以上休止してください。
- 10回を超える繰り返し撮影を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは15分以上休止してください。

- マルチ発光は、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせが最も効果的です。
- 三脚、リモートスイッチ、外部電源の使用をおすすめします。
- 1/1発光、1/2発光でのマルチ発光はできません。
- カメラの撮影モードが「**buLb**」でもマルチ発光ができます。
- 発光回数の表示が「---」のときは、シャッターが閉じるか、充電の容量がなくなるまで連続発光しますが、最大連続発光回数は、次ページの表のとおりになります。

最大連続発光回数

発光量＼Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	7	6	5	4	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	100	100	100	100	100	90	80

発光量＼Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199	250-500
1/4	2	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	8	8	8
1/32	20	20	20	18	16	12	10
1/64	50	40	40	35	30	20	15
1/128	70	70	60	50	40	40	30

● 発光回数が「---」（バー表示）のときの最大発光回数は、表のとおりになります。

1～199Hz設定時

発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	12	20	40

250～500Hz設定時

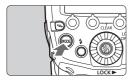
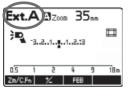
発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	10	15	30

Ext.A/Ext.M: ストロボ外部調光

　ストロボに内蔵された外部調光用センサーで、被写体に反射したストロボ光をリアルタイム測光し、標準露出になった時点でストロボの発光を停止します。

　「外部調光オート」は、2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラで使用できます。「外部調光マニュアル」は、すべてのEOSカメラで使用できます。

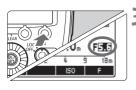
Ext.A: 外部調光オート

　自動ストロボ撮影ができます。カメラに設定されているISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。

発光モードを〈Ext.A〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈**Ext.A**〉に設定します。
- 〈**Ext.A**〉が表示されないときは、ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-2に設定します（p.96）。
- シャッターボタンを半押しすると、調光連動範囲が表示されます。

外部調光オートのときは、調光補正（p.22）、FEB（p.23）を行うことができます。

Ext.M: 外部調光マニュアル

カメラに設定されているISO感度、絞り数値を、ストロボに手動で設定します。設定したISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。

1 発光モードを〈Ext.M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈**Ext.M**〉に設定します。
- 〈**Ext.M**〉が表示されないときは、ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-3に設定します（p.96）。

2 カメラと同じISO感度を設定する

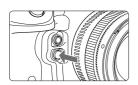
- ファンクションボタン3〈 ISO 〉を押します。
- ➡ ISO感度の数値が反転します。
- 〈◎〉を回してISO感度を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- 1/3段ステップ、最大ISO25～51200の範囲で設定することができます。

3 カメラと同じ絞り数値を設定する

- ファンクションボタン4〈 F 〉を押します。
- ➡ 絞り数値が反転します。
- 〈◎〉を回して絞り数値を設定し、〈◉〉ボタンを押します。

- ストロボの表示パネルで調光連動範囲を確認することができます。
- 外部調光マニュアルのときは、カメラとストロボのシンクロ端子を、市販のシンクロコードで接続すると、ストロボをカメラから離して撮影することができます。
- ストロボのシンクロ端子に、別のストロボをシンクロコードで接続しても発光しません。

モデリング発光

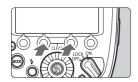
カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが1秒間連続的に発光します。この機能をモデリング発光といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたや、ワイヤレスストロボ撮影時（p.47、75）にライティングのバランスを確認するときに使用します。

カメラの絞り込みボタンを押す

➡ ストロボが1秒間連続的に発光します。

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は連続10回までにしてください。連続10回発光したときは、10分以上休止してください。
- 連続して10回を超える発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは15分以上休止してください。
- EOS Kiss III、EOS Kiss III L、およびBタイプカメラと組み合わせたときは、モデリング発光はできません。

通常のストロボ撮影、およびワイヤレス撮影のマスターストロボのときに、テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます（C.Fn-02／p.95）。

ストロボ設定初期化

ストロボの撮影機能やワイヤレス撮影の設定を､初期状態に戻すことができます。

ファンクションボタン2と3を同時に2秒以上押す

➡ ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが〈**ETTL**〉になります。

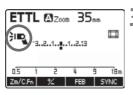
設定初期化を行っても、ワイヤレス撮影時の通信チャンネルと電波通信ID、およびC.FnとP.Fnの設定（p.92）は解除されません。

カラーフィルター

ストロボの発光色温度と被写体を照明する光の色温度が異なると、ストロボ光が届かない被写体の背景が不自然な色になることがあります。

照明光の色温度に応じた、付属のカラーフィルターを使用して発光させることで、被写体と背景の色を適切なホワイトバランスで写すことができます。なお、市販のカラーフィルターを使用することもできます。

付属のカラーフィルターについて

フィルター	濃度	補正効果	用途
電球用フィルター（オレンジ色）	淡	弱	電球による影響を補正
	濃	強	

1 ホルダーにフィルターを取り付ける

- 図のようにホルダーに付属のフィルターを取り付けます。

2 ホルダーをストロボに取り付ける

- 図のようにホルダーをストロボの発光部に取り付けます。
- 表示パネルのストロボマークが〈 〉になります。
- ホルダーを取り外すときは、逆の手順で下部のフィルター保持爪を浮かせて発光部から外します。

3 撮影する

- 光源の色温度を補正するときは、カメラのホワイトバランスを、〈ϟ〉に設定して撮影します。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラでは、ホワイトバランスを〈AWB〉に設定して撮影することもできます。
- 撮影結果を確認して、必要に応じてWB補正を行ってください。

市販のカラーフィルターについて

市販の75×75mmのフィルターを使用するときは、フィルターの自動検出機能が働かないように設定してください（P.Fn-05-1／p.102）。

P.Fn-05-0の設定で使用すると、〈〉が表示されることがあります。撮影する環境下でフィルターを使ってマニュアルホワイトバランス用の画像の撮影と設定を行い、ホワイトバランスを〈MWB〉に設定して撮影してください。

- カラーフィルター使用時は、ガイドナンバーが低下します。付属のフィルターを使用してマニュアル発光、マルチ発光を行うときは、以下を目安に発光量を補正してください。
  「淡」オレンジ：+1/3段、「濃」オレンジ：+1段
- P.Fn-05-0 の設定で、付属フィルターに近い色の市販フィルターを使用したときは、〈〉が表示されないことがあります。
- 前ページの手順1のように、ホルダーのフィルター保持爪の位置まで、フィルターを取り付けてください。正しく取り付けないと、フィルターを検知できないことがあります。
- フィルター使用時は、フル発光、連続発光はおすすめできません。発光時の熱により、フィルターが変形することがあります。
- 色が濃いフィルターほど、発光時の熱により変形しやすくなります。

- 色温度通信に対応していないカメラのときは（p.20）、「市販のカラーフィルターについて」と同様に、〈MWB〉で撮影してください。
- 市販の着色用カラーフィルターを使用するときは、ホワイトバランスを〈MWB〉に設定する必要はありません。
- ホルダーを取り付けても、照射角に対する影響はありません。
- 発光時の熱によりフィルターが変形しても、補正性能に影響はありません。
- フィルターは消耗品です。付属のフィルターが消耗したり劣化したときは、新しい純正のフィルターをお買い求めください。
- フィルターが汚れたり、ゴミが付着したときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- カラーフィルターセンサー（p.6）やホルダーの反射部（p.11）が汚れたり、ゴミが付着したときは、ブロアーなどで清掃してください。

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。

カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**（応用撮影ゾーン）にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定

1 **［外部ストロボ制御］を選ぶ**

● ［**外部ストロボ制御**］または［**ストロボ制御**］を選びます。

2 **［ストロボ機能設定］を選ぶ**

● ［**ストロボ機能設定**］または［**外部ストロボ機能設定**］を選びます。

➡ （外部）ストロボ機能設定画面になります。

3 **機能を設定する**

● **カメラにより設定画面が異なります。**

● 項目を選び、機能を設定します。

EOS-1D Xの画面例

EOS 60Dの画面例

2007年から2011年までに発売されたカメラは、次のとおりです。
EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

[ストロボ機能設定] で設定できる内容

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D Xなどのカメラと組み合わせたときは、[**ストロボ機能設定**] の画面で「通常撮影」「電波通信ワイヤレス撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

[**ストロボ機能設定**] の画面で、「通常撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。「電波通信ワイヤレス撮影」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

設定できる機能は次のとおりです。発光モードやワイヤレス機能の設定により、設定できる内容が異なります。

機能		参照ページ
ストロボの発光	する／しない	p.44
E-TTL II調光方式	評価調光／平均調光	
Avモード時のストロボ同調速度		
発光モード	E-TTL II（自動調光）／マニュアル発光／マルチ発光／外部調光オート／外部調光マニュアル／TTL（自動調光）	
シンクロ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ／ハイスピードシンクロ	
調光補正		
FEB		
ズーム（照射角）		p.45
ワイヤレス機能（設定）	電波通信ワイヤレス／光通信ワイヤレス	
ストロボ機能設定初期化		

- [**ストロボの発光**] [**E-TTL II調光方式**] は、前ページの手順2または手順3で表示されます（カメラにより異なります）。
- [**Av モード時のストロボ同調速度**] が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

絞り優先AE（**Av**）モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて、［**E-TTL II**］［**マニュアル発光**］［**マルチ発光**］［**外部調光オート**］［**外部調光M**］の中から、発光モードを選択することができます。

ストロボのカスタム機能C.Fn-05を［**1：TTL**］に設定すると（p.96）、［**TTL**］が選択できるようになりますが、EOSデジタルカメラで自動調光撮影を行うときは、［**0：E-TTL II/E-TTL**］に設定してください。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング／方式を［**先幕シンクロ**］［**後幕シンクロ**］［**ハイスピードシンクロ**］の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは、［**先幕シンクロ**］に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

● **ズーム（照射角）**

　ストロボの発光照射角を設定することができます。［Auto］を選ぶと、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角が自動設定されます。

● **ワイヤレス機能（設定）**

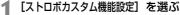
　ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。ワイヤレスストロボ撮影には、電波通信による方式と光通信による方式の2種類があります。詳しい内容については、4章、5章を参照してください。

● **ストロボ（機能）設定初期化**

　ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。

ストロボで調光補正を設定したときは、カメラのメニュー画面で調光補正を設定することはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボの設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

表示される内容は、使用するカメラにより異なります。C.Fn-20～23が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、95～100ページを参照してください。

1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

- ［**ストロボカスタム機能設定**］または［**外部ストロボカスタム機能設定**］を選びます。
- ➡（外部）ストロボカスタム機能設定画面になります。

2 カスタム機能を設定する

- カスタム機能番号を選び、機能を設定します。
- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で［**ストロボカスタム機能一括解除**］、または［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］を選びます。

- 2011年までに発売されたカメラのときは、［**ストロボカスタム機能一括解除**］を選んでも、C.Fn-20～23の設定は解除されません。94ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます（C.Fn-00を除く）。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラと組み合わせたときは、ストロボの〈**MODE**〉ボタンで外部調光オート、外部調光マニュアルを直接選択できるため、C.Fn-05-2、3は表示されません。

パーソナル機能（P.Fn／p.101）は、カメラのメニュー画面から設定／一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

4

電波通信ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「電波通信」によるワイヤレスストロボ撮影方法について説明しています。

電波通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリーについては、システム図を参照してください（p.104）。使用可能な地域と制限事項、および電波通信に関する注意事項については、別紙を参照してください。

- **電波通信機能を備えていない「スピードライト 600EX」使用時は、この章の撮影はできません。光通信ワイヤレスストロボ撮影を行うときは、5章を参照してください（p.75）。**
- **カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをP/Tv/Av/M/B（応用撮影ゾーン）にしてください。**

- カメラに取り付けた600EX-RTを「マスター」、ワイヤレス制御される600EX-RTを「スレーブ」と呼んでいます。
- スレーブに設定した600EX-RTを、スピードライトトランスミッター ST-E3-RT（別売）でワイヤレス制御することもできます。そのときのマスター機能の設定方法については、トランスミッターの説明書を参照してください。

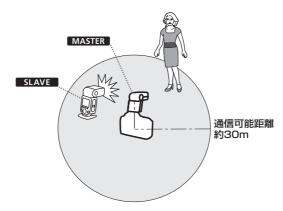
((•)) 電波通信ワイヤレスストロボ撮影

電波通信によるワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（マスター／スレーブ）を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、高度なワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けた600EX-RT（マスター）の設定内容が、ワイヤレス制御される600EX-RT（スレーブ）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。

なお、基本的な配置と作動範囲は図のとおりです。あとは、マスターを〈**ETTL**〉に設定するだけで、ワイヤレスE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

配置と作動範囲（ワイヤレスストロボ撮影例）

●スレーブを1灯使った自動調光撮影（p.57）

- 付属のミニスタンド（p.11）を使用して、スレーブを配置します。
- 撮影する前に、テスト発光（p.16）や、テスト撮影を行ってください。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。

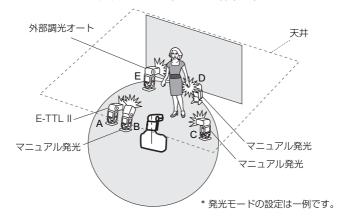
ワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比（倍率）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。また、最大5グループまでの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して、撮影することもできます。

●スレーブを2グループに分けた自動調光撮影（p.61）

●スレーブを3グループに分けた自動調光撮影（p.62）

●グループごとに発光モードを設定した撮影（p.65）

＊ 発光モードの設定は一例です。

電波通信と光通信の違いについて

電波通信によるワイヤレス撮影は、光通信によるワイヤレス撮影に対して、障害物の影響を受けにくく、スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向ける必要がないなどの利点があります。なお、機能面での主な違いは次のとおりです。

機能		電波通信	光通信
通信可能距離		約30m	約15m（屋内）
発光グループ制御		最大5グループ*1 （A/B/C/D/E）	最大3グループ （A/B/C）
スレーブ制御		最大15台	無制限
通信チャンネル		オート、Ch.1～15	Ch.1～4
電波通信ID		0000～9999	－
スレーブからの操作	テスト発光	○	－
	モデリング発光	○*2	－
	レリーズ	○*3	－

*1～3：使用するカメラによる制限事項があります（*1：p.51、65／*2：p.67／*3：p.68を参照してください）。

使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレスストロボ撮影では、使用するカメラにより「発光モード」と「ストロボ同調最高シャッター速度」（以下「ストロボ同調速度」）、「ハイスピードシンクロ機能」が制限されることがあります。

● **2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ**

EOS-1D Xなどのカメラと組み合わせたときは、発光モードとストロボ同調速度に制限なく撮影することができます。

● **2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ**

下記のカメラと組み合わせたときは、**E-TTL自動調光による電波通信ワイヤレス撮影はできません。**マニュアル発光（p.31）、マルチ発光（p.33）、または光通信ワイヤレス（p.75）で撮影してください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、
EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS IX E、
EOS IX 50

また、2011年までに発売されたデジタル/フィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

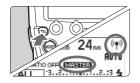
① **ストロボ同調速度が1段遅くなります。**

使用するカメラのストロボ同調速度（X=1/***秒）を確認して、ストロボ同調速度から1段遅いシャッター速度を上限にして撮影を行ってください（例：X=1/250秒の場合、1/125〜30秒の範囲で電波通信ワイヤレス撮影が可能）。また、**ハイスピードシンクロ撮影はできません。**シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くすると、〈❗Tv〉による警告表示が消えます。

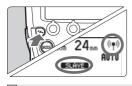
② **グループ発光はできません**（p.65）。

ワイヤレス設定

電波通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の手順でマスター、スレーブの設定を行います。

マスター設定

〈((•))〉と〈MASTER〉を表示させる

- 〈⇆〉ボタンを押して、〈((•))〉（電波通信）と〈MASTER〉を表示させます。

スレーブ設定

〈((•))〉と〈SLAVE〉を表示させる

- スレーブに設定するストロボを操作して設定します。
- 〈⇆〉ボタンを押して、〈((•))〉（電波通信）と〈SLAVE〉を表示させます。

通常のストロボ撮影を行うときは、〈⇆〉ボタンを押して、ワイヤレス（マスター /スレーブ）の設定を解除してください。

通信チャンネル／電波通信IDの設定

他の人が使用している電波通信によるワイヤレス多灯システムや、電波（無線）を使用した機器と混信しないように、通信チャンネルと電波通信IDを切り換えることができます。**チャンネルとIDは、マスター、スレーブとも同じ設定にします。**

同じ場所に複数の電波通信ワイヤレス多灯システムを構築するときは、異なるチャンネルに設定していても混信することがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください（p.53）。

●マスターとスレーブの通信チャンネル／電波通信IDを設定する

以下の操作で、マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。チャンネルとIDは、マスターとスレーブで同じ設定にします。操作方法はマスターとスレーブで共通です。

1 〈MENU 3〉の表示にする

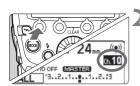
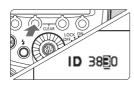
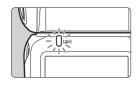
● ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。

2 チャンネルを設定する

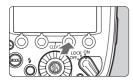
● ファンクションボタン1〈CH〉を押します。
● 〈◎〉を回して、「AUTO」またはCh.1～15の中から選び、〈◉〉ボタンを押します。

3 電波通信IDを設定する

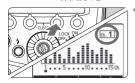
● ファンクションボタン2〈ID〉を押します。
● 〈◎〉を回して、設定する位置（桁）を選び、〈◉〉ボタンを押します。
● 〈◎〉を回して 0 ～ 9 の番号を選び、〈◉〉ボタンを押します。
● 手順3を繰り返して4桁の番号を設定します。
● ファンクションボタン4〈⮌〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

➡ マスターとスレーブの通信が確立すると、〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯します。

● マスターの通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、マスターの通信チャンネルを自動または手動で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして、再設定することができます。

「AUTO」設定状態からスキャン

スキャンする

- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。
- ファンクションボタン3〈SCAN〉を押します。
- ➡ 電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

Ch.1～15設定状態からスキャン

1 スキャンする

- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。
- ファンクションボタン3〈SCAN〉を押します。
- ➡ 電波状態がグラフで表示されます。
- グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。

2 チャンネルを設定する

- 〈◎〉を回して、Ch.1～15の中から選びます。
- 〈◉〉ボタンを押すと、チャンネルが設定され、撮影準備状態に戻ります。

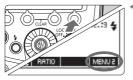
〈LINK〉ランプについて

マスターとスレーブの通信状態により〈LINK〉ランプの色が異なります。

色	状態	内容	対処
緑色	点灯	通信OK	—
赤色	点灯	未接続	チャンネル、IDの確認
	点滅	台数超過	マスター+スレーブ=16台以下
		エラー	電源入れ直し

- マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに同じ番号に設定するか、ともに「AUTO」に設定してください。
- マスターとスレーブの電波通信IDが異なると、スレーブは発光しません。

マスターストロボの発光ON/OFF

スレーブをコントロールするマスターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。マスター発光ONのときは、発光グループAとして発光します。

1 〈MENU 2〉の表示にする

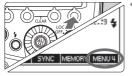
- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

2 マスター発光を設定する

- ファンクションボタン1〈 〉を押して、マスター発光ON/OFFを設定します。

  ：マスター発光ON
  ：マスター発光OFF

メモリー機能について

ワイヤレス設定した内容をマスター、スレーブに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（マスターまたはスレーブ）を個別に操作します。

1 ファンクションボタン4を押す

- マスターのときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 4〉の表示にします。
- スレーブのときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。

2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3〈MEMORY〉を押します。

[保存]

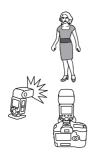
- ファンクションボタン1〈SAVE〉を押します。

➡ 設定内容が保存（記憶）されます。

[呼び出し]

- ファンクションボタン2〈LOAD〉を押します。

➡ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影

カメラに取り付けた600EX-RT（マスター）と、ワイヤレス制御を行う600EX-RT（スレーブ）を使った基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

スレーブを1灯使った自動調光撮影

1 マスターに設定する

- カメラに取り付けた600EX-RTをマスターに設定します（p.52）。
- スピードライトトランスミッター ST-E3-RT（別売）をマスターとして使用することもできます。

2 スレーブに設定する

- ワイヤレス制御を行う600EX-RTをスレーブに設定します（p.52）。
- 発光グループは、A/B/Cのいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。

3 チャンネルとIDを確認する

- マスターとスレーブのチャンネルとIDが異なるときは、同じ番号に設定します（p.53、54）。

4 カメラとストロボを配置する

- 48ページに示した範囲内に配置します。

5 発光モードを〈ETTL〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押して、発光モードを〈**ETTL**〉に設定します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈**ETTL**〉に自動設定されます。
- マスターも発光させるときは、マスター発光をONに設定します（p.55）。

6 通信状態と充電を確認する

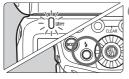
- 〈**LINK**〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- スレーブの充電が完了すると、AF補助光の投光部が1秒間隔で点滅します。
- マスターの表示パネルに、スレーブの充電完了を表す〈ϟ〉が点灯していることを確認します。
- すべてのストロボの充電が完了すると、マスターの充電ランプが点灯します。

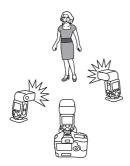
7 作動確認をする

- マスターのテスト発光ボタンを押します。

➡ スレーブが発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか、確認してください。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。

〈**LINK**〉ランプが赤色のときは電波通信ができていない状態です。マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、電源を入れ直してください。

複数のスレーブを使った自動調光撮影

より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。

スレーブを追加して、『スレーブを1灯使った自動調光撮影』と同じ手順で撮影します。発光グループは、A/B/Cのいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。

スレーブの台数を増やしたときや、マスター発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

- マスター／スレーブの照射角は、24mmに自動設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます（p.38）。
- マスター設定時は、オートパワーオフまでの時間が5分になります。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターのテスト発光ボタン（p.16）を押すと、スレーブの電源が入ります。ただし、カメラの測光タイマーが作動しているときは、テスト発光できません。
- 使用するカメラにより、自動調光方式（E-TTL II/E-TTL）が自動的に決まります。ただし、表示パネルには、ともに〈**ETTL**〉と表示されます。
- スレーブがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます（C.Fn-10／p.98）。
- すべてのスレーブの充電が完了したときに、電子音を鳴らすことができます（C.Fn-20／p.99）。
- スレーブの充電が完了したときに、AF補助光の投光部が点滅しないようにすることができます（C.Fn-23／p.100）。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本システムでは、マスターで設定したストロボ調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定されます。スレーブを操作する必要はありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

- **ストロボ調光補正**（+/- ／ p.22）
- **FEB**（FEB ／ p.23）
- **FE ロック**（p.24）
- **ハイスピードシンクロ**（SYNC ／ p.25）
- **マニュアル発光**（p.31、64）
- **マルチ発光**（p.33）

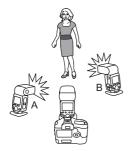
〈+/-〉〈SYNC〉〈FEB〉は、ファンクションボタン4を押すと表示されます。

マスターストロボについて

マスターを2台以上にすることができます（マスター+スレーブ=最大16台）。マスターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（スレーブ）のまま、カメラを替えて撮影することができます。

なお、マスターを2台以上にしたときは、電源を入れた順番に応じて〈**LINK**〉ランプの色が異なります。マスター1台目（メインマスター）は「緑色」、マスター2台目以降（サブマスター）は「オレンジ色」に点灯します。

〈**LINK**〉ランプが赤色のときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、マスターの電源を1台ずつ入れ直してください。

ETTL：光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループに分けた自動調光撮影

スレーブをＡとＢの２つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

1 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン3〈Gr〉を押して、〈 **A** 〉または〈 **B** 〉を選びます。
- **1台を〈 A 〉、もう1台を〈 B 〉に設定します。**

2 〈MENU 2〉の表示にする

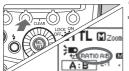
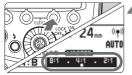
- 手順２〜４はマスターを操作して設定します。
- マスターのファンクションボタン４を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

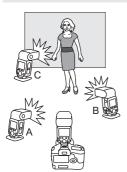
3 〈RATIO A:B〉に設定する

- ファンクションボタン2〈RATIO〉を押して〈**RATIO A:B**〉に設定します。

4 光量比を設定する

- ファンクションボタン3〈Gr〉を押します。
- ファンクションボタン3〈A:B ±〉を押します。
- 〈◎〉を回して光量比を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- ファンクションボタン4〈⮌〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

5 撮影する

➡ 設定した光量比で、スレーブが発光します。

スレーブを3グループに分けた自動調光撮影

発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

基本的な設定方法は、『スレーブを2グループに分けた自動調光撮影』と同じです。

1 発光グループCに設定する

- 追加するスレーブを、前ページの手順1と同じ操作で発光グループ〈 **C** 〉に設定します。

2 〈RATIO A:B C〉に設定する

- 前ページの手順2、3と同じ操作で、マスターを〈**RATIO A:B C**〉に設定します。

3 必要に応じて調光補正を行う

- ファンクションボタン3〈 Gr 〉を押し、〈◎〉を回して〈 **C** 〉を選びます。
- ファンクションボタン3〈 C±〉を押します。
- 〈◎〉を回して補正量を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- ファンクションボタン4〈 ↩ 〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

グループ制御について

より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やすことができます。追加するスレーブを、光量を大きくしたい発光グループ（A/B/Cのいずれか）に設定するだけです。スレーブは合計15台まで増やすことができます。

例えば、3台のスレーブの発光グループを〈 **A** 〉に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループA/B/Cの3グループで発光させるときは、〈**RATIO A:B C**〉に設定してください。〈**RATIO A:B**〉の設定では、発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

- 光量比の8：1〜1：1〜1：8は、段数換算で3：1〜1：1〜1：3（1/2段ステップ）に相当します。
- 光量比設定の詳細は、次のとおりです。

8:1 ・ 4:1 ・ 2:1 ・ 1:1 ・ 1:2 ・ 1:4 ・ 1:8

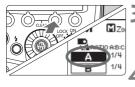
5.6:1　2.8:1　1.4:1　1:1.4　1:2.8　1:5.6

M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。スレーブ（発光グループ）ごとに発光量を設定して撮影することができます。設定はすべてマスター側で行います。

1 **発光モードを〈M〉にする**

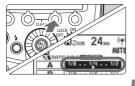
2 **発光グループ数を設定する**

- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン2〈RATIO〉を押して、発光させるグループを設定します。
- 押すごとに、ALL（**RATIO OFF**）→ A/B（**RATIO A:B**）→ A/B/C（**RATIO A:B:C**）の順に切り換わります。

3 **発光グループを選ぶ**

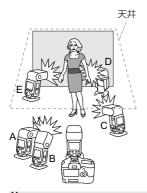
- ファンクションボタン3〈Gr〉を押し、〈◎〉を回して発光量を設定するグループを選びます。

4 **発光量を設定する**

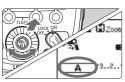
- ファンクションボタン3〈＊⁺⁄₋〉を押します。
- 〈◎〉を回して発光量を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

5 **撮影する**

➡ 設定した発光量で、各グループが発光します。

- ALL〈**RATIO OFF**〉設定時は、スレーブの発光グループをA/B/Cのいずれかに設定してください。D/Eに設定しても発光しません。
- 複数のスレーブを同じ発光量で発光させるときは、手順2でALL〈**RATIO OFF**〉を選びます。

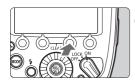
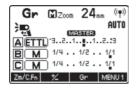
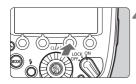
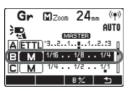
Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影

EOS-1D Xなど2012年に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ（A/B/C/D/E）までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

設定できる発光モードは、①E-TTL II/E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

2011年までに発売されたカメラでは、〈**Gr**〉の発光モードでワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。最大3グループ（A/B/C）での撮影になります（p.62）。

1 発光モードを〈Gr〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押して、発光モードを〈**Gr**〉に設定します。

2 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン3〈 Gr 〉を押して、〈 **A** 〉〈 **B** 〉〈 **C** 〉〈 **D** 〉〈 **E** 〉のいずれかを選びます。
- すべてのスレーブに発光グループ（A/B/C/D/E）を設定します。

3 発光モードを設定する

- マスターを操作して、各発光グループの発光モードを設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン3〈Gr〉を押し、〈◎〉を回してグループを選びます。
- ファンクションボタン2〈＊MODE〉を押して、選択したグループの発光モードを〈**ETTL**〉〈**M**〉〈**Ext.A**〉の中から選びます。
- 選択したグループを発光させないときは、ファンクションボタン1〈ON/OFF〉を押して〈**OFF**〉にします。
- 手順3を繰り返して、すべてのグループの発光モードを設定します。

4 発光量／調光補正量を設定する

- 発光グループを選んだ状態で、ファンクションボタン3〈＊±〉を押します。
- 〈◎〉を回して発光モードに応じた発光機能を設定し、〈◉〉を押します。
- 〈**M**〉のときは、発光量を設定します。〈**ETTL**〉〈**Ext.A**〉のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン2〈±〉を押すと、発光グループ全体の調光補正を行うことができます。
- 手順4を繰り返して、すべてのグループの発光機能を設定します。
- ファンクションボタン4〈↩〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

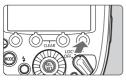
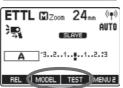
5 撮影する

➡ 各スレーブが設定したそれぞれの発光モードで発光します。

発光グループの発光モードが〈**ETTL**〉〈**Ext.A**〉のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。

発光させるグループは、A/C/Eのように連続していなくても構いません。

スレーブからのテスト発光／モデリング発光

電波通信ワイヤレス撮影時に、スレーブに設定されている600EX-RTからテスト発光、モデリング発光を行うことができます。

1 〈MENU 2〉を表示させる

- スレーブのファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

➡ 〈MODEL〉〈TEST〉が表示されます。

2 発光させる

テスト発光

- スレーブのファンクションボタン3〈TEST〉を押します。

モデリング発光（p.38）

- スレーブのファンクションボタン2〈MODEL〉を押します。

- 2011年までに発売されたカメラのときは、スレーブからのモデリング発光はできません。
- モデリング発光に関する注意事項については、38ページを参照してください。

マスターが2台以上のときは、〈**LINK**〉ランプが「緑色」に点灯しているマスターが発光します。

スレーブからのリモートレリーズ

電波通信ワイヤレス撮影時に、スレーブに設定されている600EX-RTからリモートレリーズ（リモコン撮影）を行うことができます。

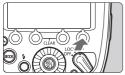
この機能を使って撮影するときは、使用するカメラにより「レリーズケーブルSR-N3」（別売）が必要です。

スレーブリモートレリーズ対応カメラ

EOS-1D Xなど2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラのときは、「レリーズケーブルSR-N3」は必要ありません。

スレーブリモートレリーズ非対応カメラ

上記以外のN3タイプのリモコン端子を備えた、E-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラを使用して、スレーブからリモートレリーズを行うときは、「レリーズケーブルSR-N3」（別売）が必要です。

図のように、カメラとマスターに設定された600EX-RTをケーブルで接続します。

1 〈MENU 2〉の表示にする

- スレーブのファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

2 撮影する

- スレーブのファンクションボタン1〈REL〉を押します。

➡ スレーブからマスターにレリーズ信号が送られ、撮影が行われます。

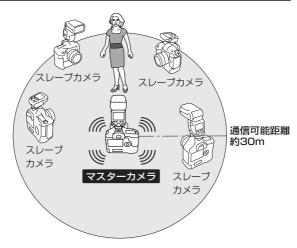
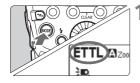
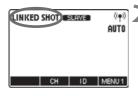
- カメラとストロボの電源を切った状態でレリーズケーブルを接続してください。
- AFでピント合わせができないときは撮影は行われません。手動ピント合わせを行ってからレリーズすることをおすすめします。
- 「レリーズケーブルSR-N3」（別売）は、N3タイプのリモコン端子用です。N3タイプ以外のリモコン端子を備えたカメラには使用できません。

- カメラのドライブモードの設定に関わらず、「1 枚撮影」でリモートレリーズが行われます。
- マスターが2台以上のときは、〈**LINK**〉ランプが「緑色」に点灯しているマスターでリモートレリーズが行われます。

電波通信による連動撮影

　連動撮影は、マスターカメラのレリーズに連動してスレーブカメラを自動レリーズさせる機能です。マスターとスレーブを合わせて最大16台の連動撮影を行うことができます。被写体を複数のアングルから一斉に撮影したいときに有効です。

　連動撮影を行うときは、電波通信ワイヤレス撮影に対応したストロボ、またはスピードライトトランスミッター ST-E3-RTをカメラに装着します。

　なお、2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えたカメラを「スレーブカメラ」で使用するときは、「レリーズケーブルSR-N3」（別売）が必要です。ケーブルの取り付け方法については、68ページを参照してください。

　次ページの操作を行う前に、連動撮影を行うすべてのストロボ、トランスミッターを各カメラに装着してください。なお、トランスミッターの設定方法については、トランスミッターの使用説明書を参照してください。

1 通常撮影にする

- 〈⇆〉ボタンを押して通常のストロボ撮影状態にします。
- 表示パネルに〈((•))〉（電波通信）、〈⚡〉（光通信）が表示されていないことを確認します。

2 連動撮影モードにする

- 表示パネルに〈**LINKED SHOT**〉が表示されるまで、〈⇆〉ボタンを長く押します。

➡ 連動撮影モードの「スレーブ」になります。

- もう一度〈⇆〉ボタンを押すと、連動撮影モードの「マスター」になります。

3 チャンネル、IDを設定する

- チャンネルはファンクションボタン2〈CH〉、IDはファンクションボタン3〈ID〉を押して設定します。
- 設定方法については、52～55ページを参照してください。

4 カメラの撮影機能を設定する

5 すべてのストロボを設定する

- 手順1～4を繰り返して、すべてのストロボを連動撮影モードの「マスター」または「スレーブ」に設定します。
- 連動撮影を行うトランスミッターも、同じように設定します。
- 〈⇄〉ボタンを押して「スレーブ」から「マスター」に変更すると、「マスター」に設定されていた他のストロボ（またはトランスミッター）が自動的に「スレーブ」になります。

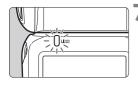
6 スレーブカメラを設置する

- スレーブの〈**LINK**〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- マスターカメラから約30mの範囲内にすべてのスレーブカメラを設置します。

7 撮影する

- マスターの〈**LINK**〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認して撮影します。

➡ マスターカメラに連動して、スレーブカメラがレリーズします。

➡ 連動撮影が行われたスレーブは〈**LINK**〉ランプが一瞬「オレンジ色」に点灯します。

- スレーブカメラは手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。AFでピント合わせができないときは、そのスレーブカメラは連動しません。
- マスターカメラのレリーズタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがレリーズします。まったく同時に撮影することはできません。
- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。
- ［**ストロボ機能設定**］の［**ストロボの発光**］が［**しない**］に設定されているときは（p.44）、連動撮影はできません。
- P.Fn-07-0設定時に（p.102）、ライブビュー状態で連動撮影を行うときは、マスターカメラのメニューの［ **(LV) 静音撮影**］を［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されているときは、スレーブカメラが連動しません。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。
- 連動撮影機能は、ワイヤレスファイルトランスミッター WFTシリーズの連動撮影と同等の機能です。ただし、WFTシリーズと組み合わせて連動撮影を行うことはできません。なお、レリーズタイムラグは、WFTシリーズによる連動撮影と異なります。

- ストロボまたはトランスミッターをカメラに装着せずに、連動撮影用のマスターリモコンとして使うこともできます。マスターのファンクションボタン1〈REL〉を押すと、すべてのスレーブカメラがレリーズします。
- 連動撮影時は、オートパワーオフまでの時間がマスターカメラ、スレーブカメラともに5分になります。
- 連動撮影時にストロボを発光させることができます。（P.Fn-07／p.102）

5

光通信
ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」によるワイヤレスストロボ撮影方法について説明しています。

光通信ワイヤレスに必要なアクセサリーについては、システム図を参照してください（p.104）。

カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードをP/Tv/Av/M/B（応用撮影ゾーン）にしてください。

- スピードライト600EX-RT、スピードライト600EXともに、光通信によるワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。
- カメラに取り付けた600EX-RT/600EXを「マスター」、ワイヤレス制御される600EX-RT/600EXを「スレーブ」と呼んでいます。
- スレーブに設定した600EX-RT/600EXを、マスター機能を備えたEOSデジタルカメラ、またはスピードライトトランスミッターST-E2（別売）でワイヤレス制御することもできます。そのときのマスター機能の設定方法については、カメラ、またはトランスミッターの説明書を参照してください。

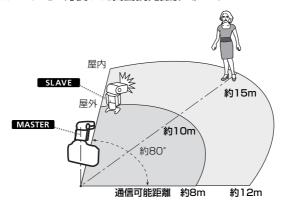
光通信ワイヤレスストロボ撮影

光通信によるワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト(マスター／スレーブ）を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、高度なワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けた600EX-RT/600EX（マスター）の設定内容が、ワイヤレス制御されるストロボ（スレーブ）側にも自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。

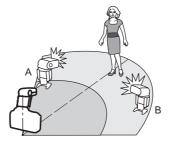
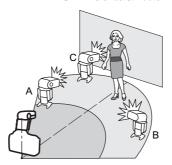
なお、基本的な撮影準備操作は以下の図のとおりです。あとは、マスターを〈**ETTL**〉に設定するだけで、ワイヤレスE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

配置と作動範囲（ワイヤレスストロボ撮影例）

●スレーブを1灯使った自動調光撮影（p.81）

- 付属のミニスタンド（p.11）を使用して、スレーブを配置します。
- 左右バウンス機能（p.27）を利用して、スレーブの受信部をマスターに向けます。
- 室内で撮影するときは、通信が壁面反射することにより、多少ラフな配置でも作動することがあります。

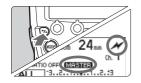
ワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比（倍率）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

●スレーブを2グループに分けた自動調光撮影（p.85）

●スレーブを3グループに分けた自動調光撮影（p.86）

- 撮影する前に、テスト発光（p.16）や、テスト撮影を行ってください。
- 通信の妨げになるため、マスターとスレーブの間に障害物を置かないでください。

ワイヤレス設定

光通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の手順でマスター、スレーブの設定を行います。

マスター設定

〈〉と〈MASTER〉を表示させる

- 〈〉ボタンを押して、〈〉(光通信)と、〈MASTER〉を表示させます。

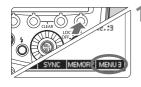
スレーブ設定

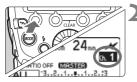
〈〉と〈SLAVE〉を表示させる

- スレーブに設定するストロボを操作して設定します。
- 〈〉ボタンを押して、〈〉(光通信)と、〈SLAVE〉を表示させます。

通常のストロボ撮影を行うときは、〈〉ボタンを押して、ワイヤレス(マスター/スレーブ)の設定を解除してください。

通信チャンネルの設定

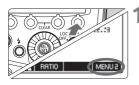
他の人が使用している光通信によるワイヤレスシステムと混信しないように、通信チャンネルを切り換えることができます。**チャンネルは、マスター、スレーブとも同じ番号に設定します。**

1 ファンクションボタン4を押す

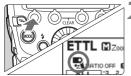
- マスターを設定するときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。
- スレーブを設定するときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

2 チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1〈CH〉を押します。
- 〈◎〉を回して、Ch.1～4の中から選び〈◉〉ボタンを押します。

マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに同じ番号に設定してください。

マスターストロボの発光ON/OFF

スレーブをコントロールするマスターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。マスター発光ONのときは、発光グループAのスレーブとして発光します。

1 〈MENU 2〉の表示にする

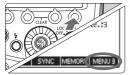
- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

2 マスター発光を設定する

- ファンクションボタン1〈 / 〉を押して、マスター発光ON/OFFを設定します。

  ：マスター発光ON
  ：マスター発光OFF

マスター発光をOFFにしても、スレーブを制御するための発光（光通信）が行われます。そのため、撮影条件により、スレーブを制御するための発光が写り込むことがあります。

メモリー機能について

ワイヤレス設定した内容をマスター、スレーブに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（マスターまたはスレーブ）を個別に操作します。

1 ファンクションボタン4を押す

- マスターのときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 3〉の表示にします。
- スレーブのときは、ファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3〈MEMORY〉を押します。

[保存]

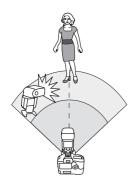
- ファンクションボタン1〈SAVE〉を押します。

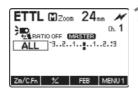
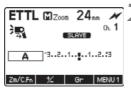
➡ 設定内容が保存（記憶）されます。

[呼び出し]

- ファンクションボタン2〈LOAD〉を押します。

➡ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影

　カメラに取り付けた600EX-RT/600EX（マスター）と、ワイヤレス制御を行う600EX-RT/600EX（スレーブ）を使った基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

スレーブを1灯使った自動調光撮影

1 マスターに設定する

- カメラに取り付けた600EX-RT/600EXをマスターに設定します（p.78）。
- マスター機能を備えたカメラ、またはスピードライトトランスミッター ST-E2（別売）をマスターとして使用することもできます。

2 スレーブに設定する

- ワイヤレス制御を行う600EX-RT/600EXをスレーブに設定します（p.78）。
- スレーブ機能を備えた、他のEX スピードライトを使用することもできます。
- 発光グループは、A/B/Cのどれでも構いません。

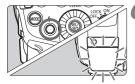
3 通信チャンネルを確認する

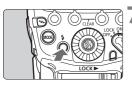
- マスターとスレーブのチャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します（p.78）。

4 カメラとストロボを配置する

- 76ページに示した範囲内に配置します。

5 発光モードを〈ETTL〉にする

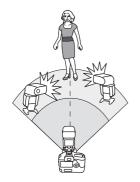
- マスターの〈**MODE**〉ボタンを押して、発光モードを〈**ETTL**〉に設定します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈**ETTL**〉に自動設定されます。
- マスターも発光させるときは、マスター発光をONに設定します（p.79）。

6 充電を確認する

- マスターの充電ランプが点灯していることを確認します。
- スレーブの充電が完了すると、AF補助光の投光部が1秒間隔で点滅します。

7 作動確認をする

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ➡ スレーブが発光します。発光しないときは、作動範囲内に配置されているか、確認してください。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- ➡ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが3秒間点灯します。

複数のスレーブを使った自動調光撮影

より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。

スレーブを追加して、『スレーブを1灯使った自動調光撮影』と同じ手順で撮影します。発光グループは、A/B/Cのどれでも構いません。

スレーブの台数を増やしたときや、マスター発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

スレーブの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でスレーブが誤動作して、意図せずに発光することがあります。

- マスター／スレーブの照射角は、24mmに自動設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます(p.38)。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターをテスト発光させると、スレーブの電源が入ります。ただし、カメラの測光タイマーが作動しているときは、テスト発光できません。
- 使用するカメラにより、自動調光方式（E-TTL II/E-TTL）が自動的に決まります。ただし、表示パネルには、ともに〈**ETTL**〉と表示されます。
- スレーブがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます（C.Fn-10／p.98）。
- スレーブの充電が完了したときに、AF補助光の投光部が点滅しないようにすることができます。（C.Fn-23／p.100）

全自動ワイヤレスの応用撮影

本システムでは、マスターで設定したストロボ調光補正などの内容が、そのままスレーブに自動設定されます。スレーブを操作する必要はありません。以下のワイヤレスストロボ撮影を、通常のストロボ撮影と同じ操作で行うことができます。

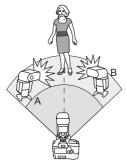
- **ストロボ調光補正**（±／p.22）
- **FEB**（FEB／p.23）
- **FE ロック**（p.24）
- **ハイスピードシンクロ**（SYNC／p.25）
- **マニュアル発光**（p.31、88、89）
- **マルチ発光**（p.33、89）

光通信ワイヤレス撮影時のマルチ発光は、発光周波数が1～199Hzになります（250～500Hz不可）。

〈±〉〈SYNC〉〈FEB〉は、ファンクションボタン4を押すと表示されます。

マスターストロボについて

マスターを2台以上にすることができます。マスターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（スレーブ）のまま、カメラを替えて撮影することができます。

ETTL: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループに分けた自動調光撮影

スレーブをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

1 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン3〈Gr〉を押して、〈 A 〉または〈 B 〉を選びます。
- **1台を〈 A 〉、もう1台を〈 B 〉に設定します。**

2 〈MENU 2〉の表示にする

- 手順2～4はマスターを操作して設定します。
- マスターのファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。

3 〈RATIO A:B〉に設定する

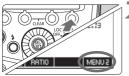
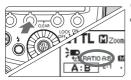
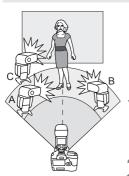
- ファンクションボタン2〈RATIO〉を押して、〈**RATIO A:B**〉に設定します。

4 光量比を設定する

- ファンクションボタン3〈Gr〉を押します。
- ファンクションボタン3〈A:B ±〉を押します。
- 〈◎〉を回して光量比を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- ファンクションボタン4〈⮌〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

5 撮影する

➡ 設定した光量比で、スレーブが発光します。

スレーブを3グループに分けた自動調光撮影

発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときに有効です。

基本的な設定方法は、『スレーブを2グループに分けた自動調光撮影』と同じです。

1 スレーブCに設定する

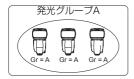
- 追加するスレーブを、前ページの手順1と同じ操作で発光グループ〈 **C** 〉に設定します。

2 〈RATIO A:B C〉に設定する

- 前ページの手順2、3と同じ操作で、マスターを〈**RATIO A:B C**〉に設定します。

3 必要に応じて調光補正を行う

- ファンクションボタン3〈Gr〉を押し、〈◎〉を回して〈 **C** 〉を選びます。
- ファンクションボタン3〈C±〉を押します。
- 〈◎〉を回して補正量を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- ファンクションボタン4〈↩〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

グループ制御について

より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やすことができます。追加するスレーブを、光量を大きくしたい発光グループ（A/B/Cのいずれか）に設定するだけです。台数に制限はありません。

例えば、3台のスレーブの発光グループを〈 **A** 〉に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループA/B/Cの3グループで発光させるときは、〈**RATIO A:B C**〉に設定してください。〈**RATIO A:B**〉の設定では、発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- E-TTL自動調光に対応した一部のEOSフィルムカメラ使用時は、光量比を設定したワイヤレス多灯撮影はできません。

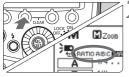
- 光量比の8：1～1：1～1：8は、段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。
- 光量比設定の詳細は、次のとおりです。

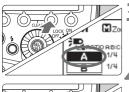
8:1 ・ 4:1 ・ 2:1 ・ 1:1 ・ 1:2 ・ 1:4 ・ 1:8

5.6:1　2.8:1　1.4:1　■　1:1.4　1:2.8　1:5.6

M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。スレーブ（発光グループ）ごとに発光量を設定して撮影することができます。設定はすべてマスター側で行います。

1 発光モードを〈M〉にする

2 発光グループ数を設定する

- 〈MENU 1〉が表示された状態で、ファンクションボタン2〈RATIO〉を押して、発光させるグループを設定します。
- 押すごとに、ALL（**RATIO OFF**）→ A/B（**RATIO A:B**）→ A/B/C（**RATIO A:B:C**）の順で切り換わります。

3 発光グループを選ぶ

- ファンクションボタン3〈Gr〉を押し、〈◎〉を回して発光量を設定するグループを選びます。

4 発光量を設定する

- ファンクションボタン3〈＊±〉を押します。
- 〈◎〉を回して発光量を設定し、〈◉〉ボタンを押します。
- 手順3、4を繰り返して、すべてのグループの発光量を設定します。

5 撮影する

➡ 設定した発光量で、各グループが発光します。

- ALL〈**RATIO OFF**〉設定時は、スレーブの発光グループはA/B/Cのどれでも構いません。
- 複数のスレーブを同じ発光量で発光させるときは、手順2でALL〈**RATIO OFF**〉を選びます。

スレーブで設定するマニュアル発光／マルチ発光

　スレーブを直接操作して、マニュアル発光、マルチ発光の手動設定を行うことができます。この機能を単独スレーブといいます。スピードライトトランスミッター ST-E2（別売）を使用して、ワイヤレスマニュアル発光、マルチ発光を行うときなどに利用します。

1 スレーブに設定する（p.78）

2 単独スレーブに設定する

- 〈INDIVIDUAL SLAVE〉が表示されるまで、スレーブの〈MODE〉ボタンを長く押します。

マニュアル発光

➡ 発光モードが〈M〉に設定されます。
- マニュアル発光量を設定します（p.31）。

マルチ発光

- 〈MODE〉ボタンを押して、〈MULTI〉に設定します。
- マルチ発光の設定を行います（p.33）。
- もう一度〈MODE〉ボタンを押すと、通常のスレーブ状態に戻ります。

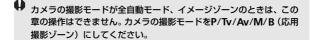
光通信ワイヤレス撮影時のマルチ発光は、発光周波数が1～199Hzになります（250～500Hz不可）。

単独スレーブに設定したスレーブは、マスターからの発光モード制御は受けません。単独スレーブで設定した発光モードで発光します。

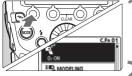
6

ストロボのカスタマイズ

この章では、カスタム機能（C.Fn）、パーソナル機能（P.Fn）によるストロボのカスタマイズについて説明しています。

カメラの撮影モードが全自動モード、イメージゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**（応用撮影ゾーン）にしてください。

C.Fn/P.Fn: カスタム／パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、600EX-RT/600EX特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能

1 カスタム機能画面にする

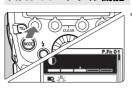
- 画面が表示されるまで、ファンクションボタン1〈Zm/C.Fn〉を長く押します。
- ➡ カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して設定する項目（番号）を選びます。

3 設定内容を変更する

- 〈◉〉ボタンを押します。
- ➡ 設定項目が表示されます。
- 〈◎〉を回して希望する設定内容を選び、〈◉〉ボタンを押します。
- ファンクションボタン4〈⮌〉を押すと、撮影準備状態に戻ります。

P.Fn: パーソナル機能

1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1の操作を行ったあと、ファンクションボタン1〈P.Fn〉を押します。
- ➡ パーソナル機能画面が表示されます。

2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

カスタム機能一覧

番号	項目		参照ページ
C.Fn-00	m/ft	距離表示	p.95
C.Fn-01		オートパワーオフ	
C.Fn-02	MODELING	モデリング発光	
C.Fn-03	AUTO CANCEL	FEB自動解除	p.96
C.Fn-04		FEB撮影順序	
C.Fn-05	MODE	調光方式	
C.Fn-06	QUICK	連続撮影時のクイック発光	p.97
C.Fn-07	TEST	自動調光時のテスト発光	
C.Fn-08	AF	AF補助光の投光	
C.Fn-09		画面サイズ対応自動ズーム	p.98
C.Fn-10		スレーブのオートパワーオフ時間	
C.Fn-11		スレーブのオートパワーオフ解除	
C.Fn-12		外部電源使用時の充電	p.99
C.Fn-13		調光補正の設定方法	
C.Fn-20		電子音	
C.Fn-21		配光特性	p.100
C.Fn-22		表示パネルの照明	
C.Fn-23		スレーブの充電確認	

パーソナル機能一覧

番号	項目		参照ページ
P.Fn-01	◐	表示パネルの濃度	p.101
P.Fn-02		表示パネル照明色：通常撮影	
P.Fn-03		表示パネル照明色：マスター	
P.Fn-04		表示パネル照明色：スレーブ	
P.Fn-05		カラーフィルターの自動検出	p.102
P.Fn-06		ワイヤレスボタンの順序	
P.Fn-07	LINKED SHOT	連動撮影時の発光	

カスタム機能／パーソナル機能一括解除

カスタム機能の画面で、ファンクションボタン2〈CLEAR〉を押して、ファンクションボタン1〈OK〉を押すと、設定されているカスタム機能を解除することができます。また、パーソナル機能の画面で同じ操作を行うと、設定されているパーソナル機能を解除することができます。

- カスタム機能の一括解除を行っても、C.Fn-00は解除されません。
- スピードライト600EXでは、P.Fn-06、07は表示されません。
- カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定したときに、C.Fn-20～23が表示されないときは、92ページの操作で設定してください。

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定／一括解除することができます（p.46）。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-00: m/ft（距離表示）

表示パネルの距離表示を、メートル/フィートから選ぶことができます。

0： m（メートル表示）

1： ft（フィート表示）

調光可能な距離が18m/60ft.を超えるときは、表示パネルの調光連動範囲の右端が〈▶〉になります。

C.Fn-01: （オートパワーオフ）

ストロボを操作しないで約90秒放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

0： ON（入）

1： OFF（切）

連続発光などにより、発光部の温度が上昇しているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

C.Fn-02: MODELING（モデリング発光）

0：（する：絞り込みボタン）

カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光します。

1：（する：テスト発光ボタン）

ストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

2： /（両方のボタンで発光する）

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3： OFF（しない）

モデリング発光を禁止します。

C.Fn-03: ▨ AUTO CANCEL（FEB自動解除）

FEBで3枚撮影したあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

0：ON（する）

1：OFF（しない）

C.Fn-04: ▨（FEB撮影順序）

0：補正なし、－：マイナス補正（暗く）、＋：プラス補正（明るく）の順序を変更することができます。

0：0→－→＋

1：－→0→＋

C.Fn-05: MODE（調光方式）

ストロボ撮影時の自動調光方式を変更することができます。

0：E-TTL II/E-TTL

1：TTL

2：Ext.A（外部調光：オート）

3：Ext.M（外部調光：マニュアル）

EOSデジタルカメラ、およびEOS Kiss 7使用時は、1に設定しないでください。機種により、発光しなかったり常時フル発光になるなど、調光制御が正しく行われません。また、ワイヤレスストロボ撮影ができなくなります。

- 1はBタイプのEOSフィルムカメラ用の設定です。
- Bタイプカメラ使用時に0に設定しても、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影はできません。

C.Fn-06: QUICK（連続撮影時のクイック発光）

連続撮影時に充電ランプが緑色（フル充電前）の状態で発光させるかどうかを設定することができます。

0： OFF（しない）

1： ON（する）

連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。近距離撮影で撮影間隔を短くしたい場合以外は、1に設定しないでください。

C.Fn-07: TEST（自動調光時のテスト発光）

E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光モードでテスト発光を行うときの発光量を変更することができます。

0： 1/32（1/32発光）

1： 1/1（フル発光）

C.Fn-08: AF（AF補助光の投光）

0： ON（する）

1： OFF（しない）

ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn-09: （画面サイズ対応自動ズーム）

0： ON（する）

照射角が「自動設定〈A〉」に設定されているときに、使用しているEOSデジタルカメラの画面サイズに合わせて、照射角が自動調整されます。対応しているカメラに装着したときは、表示パネルに〈 〉が表示されます。

1： OFF（しない）

画面サイズに応じた照射角の自動調整は行われません。

C.Fn-10: （スレーブのオートパワーオフ時間）

スレーブがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます。なお、スレーブがオートパワーオフ状態になると、表示パネルに〈 〉が表示されます。この機能はスレーブごとに設定します。

0： 60min（60分）

1： 10min（10分）

C.Fn-11: → （スレーブのオートパワーオフ解除）

マスターのテスト発光ボタンを押すと、オートパワーオフ状態になったスレーブの電源を入れることができます。オートパワーオフ状態のスレーブがこの機能を受け付ける時間を変更することができます。

0： 8h（8時間以内）

1： 1h（1時間以内）

C.Fn-12: （外部電源使用時の充電）

0： + （ストロボ本体と外部電源）

内部電源と外部電源を使用した並列充電を行います。

1： （外部電源のみ）

ストロボを制御するために内部電源も必要ですが、充電は外部電源のみで行うため、内部電源の消耗を抑えることができます。

C.Fn-13: （調光補正の設定方法）

0： + （ボタン＋ダイヤル）

1： （ダイヤルで直接設定）

〈 〉ボタンを押さずに、直接〈 〉を回して調光補正を行うことができます。

C.Fn-20: （電子音）

ストロボの充電が完了したときや、電波通信ワイヤレスストロボ撮影時にスレーブの充電が完了したときに、電子音を鳴らすことができます。

なお、**1**に設定したときは、発光部の温度上昇による発光制限状態のときに、警告のための電子音が鳴ります。

0： OFF（切）

1： ON（入）

C.Fn-21: （配光特性）

照射角が「自動設定〈A〉」に設定されているときの、撮影画角に対するストロボ光の配光（照射角）特性を変更することができます。

0：（標準）

撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

1：（ガイドナンバー優先）

0設定時よりも写真の周辺部分が少し暗くなりますが、光量を優先したい場合に有効です。実際の撮影画角よりも、やや望遠側寄りに照射角が自動設定されます。表示パネルのストロボマークが〈〉になります。

2：（配光優先）

0設定時よりも撮影距離が少し短くなりますが、写真の周辺部分の光量低下を抑えたい場合に有効です。実際の撮影画角よりも、やや広角側寄りに照射角が自動設定されます。表示パネルのストロボマークが〈〉になります。

C.Fn-22: （表示パネルの照明）

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネル照明が点灯します。この照明の設定を変更することができます。

0： 12sec（12秒間照明）

1： OFF（照明しない）

2： ON（常時照明）

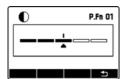
C.Fn-23: （スレーブの充電確認）

ワイヤレスストロボ撮影時にスレーブの充電が完了すると、スレーブのAF補助光の投光部が点滅しますが、これを禁止することができます。この機能はスレーブごとに設定します。

0： /（AF補助光点滅とランプ）

1： （ランプ）

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: ◐（表示パネルの濃度）

表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-02: （表示パネル照明色：通常撮影）

通常撮影（クリップオンストロボ）時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0： GREEN（緑）

1： ORANGE（オレンジ）

P.Fn-03: （表示パネル照明色：マスター）

電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影、連動撮影：マスター設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0： GREEN（緑）

1： ORANGE（オレンジ）

P.Fn-04: （表示パネル照明色：スレーブ）

電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影、連動撮影：スレーブ設定時の表示パネル照明の色を選ぶことができます。

0： ORANGE（オレンジ）

1： GREEN（緑）

P.Fn-05: （カラーフィルターの自動検出）

0： AUTO（自動）

付属のカラーフィルターを使用するときに設定します。フィルターの自動検出が行われます。

1： OFF（切）

市販のカラーフィルターを使用するときに設定します。フィルターの自動検出は行われません。

P.Fn-06: （ワイヤレスボタンの順序）

ワイヤレスボタンを押したときに選択できる内容を変更することができます。なお、スピードライト600EXでは、P.Fn-06は表示されません。

0： OFF→((•))→（通常→電波→光）

通常撮影 → 電波通信：マスター → 電波通信：スレーブ → 光通信：マスター → 光通信：スレーブの順に設定が切り換わります。

1： OFF↔((•))（通常⇔電波）

通常撮影 → 電波通信：マスター → 電波通信：スレーブの順に設定が切り換わります。

2： OFF↔（通常⇔光）

通常撮影 → 光通信：マスター → 光通信：スレーブの順に設定が切り換わります。

P.Fn-07: LINKED SHOT（連動撮影時の発光）

連動撮影時に（p.70）、カメラに装着しているストロボを発光させるかどうかを設定することができます。連動撮影を行うストロボごとに設定します。なお、スピードライト600EXでは、P.Fn-07は表示されません。

0： OFF（しない）

連動撮影時にストロボは発光しません。

1： ON（する）

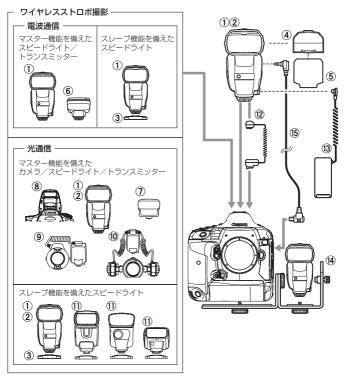
連動撮影時にストロボが発光します。

連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。

7

資料

この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

600EX-RT/600EXのシステム

① スピードライト600EX-RT
② スピードライト600EX（⑮は使用不可）
③ ミニスタンド（600EX-RT/600EXに付属）
④ カラーフィルターホルダー SCH-E1（600EX-RT/600EXに付属）

⑤ カラーフィルターセットSCF-E1（600EX-RT/600EXに付属）

⑥ スピードライトトランスミッター ST-E3-RT

スレーブ設定されたスピードライトを電波通信でワイヤレス制御するための送信機です。

⑦ スピードライトトランスミッター ST-E2

スレーブ設定されたスピードライトを光通信でワイヤレス制御するための送信機です。

⑧ ワイヤレスマスター機能を備えたEOSカメラ

内蔵ストロボによる光通信ワイヤレスマスター機能を備えたEOSデジタルカメラを、マスターとして使用することができます。

⑨ マクロリングライトMR-14EX／⑩ マクロツインライトMT-24EX

近接撮影用のマクロストロボです。

⑪ 光通信ワイヤレススレーブ機能を備えたスピードライト

580EX II、580EX、550EX、430EX II、430EX、420EX、320EX、270EX II

⑫ オフカメラシューコードOC-E3

600EX-RT/600EXをカメラから約60cmまで離して使用することができます。

⑬ コンパクトバッテリーパックCP-E4

携帯性に優れた小型軽量の外部電源です。600EX-RT/600EX同等の防塵・防滴機能を備えています。

⑭ スピードライトブラケットSB-E2

⑮ レリーズケーブルSR-N3

2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えたE-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラと600EX-RTをこのケーブルで接続すると、電波通信ワイヤレス撮影時にスレーブからレリーズしたり（p.68）、スレーブカメラとして連動撮影ができるようになります（p.70）。

外部電源は⑬コンパクトバッテリーパックCP-E4を使用してください。キヤノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因になることがあります。

温度上昇による発光制限について

ストロボを使用した連続撮影やマルチ発光、モデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部の温度が上昇することがあります。下の表に示す目安を超えて繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、自動的に発光制限が行われます。発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔が強制的に約8〜20秒になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。

表示	レベル1 （発光間隔：約8秒）	レベル2 （発光間隔：約20秒）
マーク	[icon]	[icon]
表示パネル照明	赤色（点灯）	赤色（点滅）

連続発光回数と休止時間

警告表示までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間は、表のとおりです。

機能	警告表示（レベル1）までの連続発光回数（目安）	必要休止時間（目安）
連続発光（p.13）	48回以上	10分以上
モデリング発光（p.38）		

* フル発光、照射角14mm/20mm時

* 外部電源使用時は2/3倍（32回以上）となる

- マルチ発光時の「警告表示までの連続発光回数」は、発光量により異なります。
- 推奨する回数については、連続発光（p.13）、マルチ発光（p.33）、モデリング発光（p.38）を参照してください。
- 連続発光後に電池を交換するときは、電池が熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- C.Fn-20-0設定時は（p.99）、発光制限状態になっても、警告のための電子音は鳴りません。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

●通常撮影

電源が入らない／ストロボが発光しない

- 電池が正しい向きに入っているか、確認してください（p.14）。
- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください（p.15）。
- 30 秒たってもフル充電にならないときは、電池を交換してください（p.14）。
- 外部電源を使用するときも、ストロボ本体の電池を入れてください（p.14）。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点を清掃してください（p.6）。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください（p.16）。

写真がアンダー、またはオーバーになる

- 画面内に窓ガラスなど、反射率の高いものがあるときは、FEロックを行ってください（p.24）。
- 被写体が暗い、または明るいときは、調光補正を行ってください（p.22）。
- ハイスピードシンクロのときは調光できる距離が短くなります。被写体に近づいて撮影してください（p.25）。

写真の下側が暗い

- 撮影距離が近すぎます。被写体から離れて撮影してください。
- 1m以内の被写体を撮影するときは、バウンス位置を下向き7°にしてください。
- レンズにフードが付いているときは、取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 照射角の設定を自動設定にしてください（p.29）。
- 照射角を手動設定するときは、撮影画角よりも、広い照射角を設定してください（p.30）。
- C.Fn-21-1に設定されていないか確認してください（p.100）。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で〈**Av**〉モードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に（シャッター速度が遅く）なります。三脚を使用するか、〈**P**〉または全自動モードで撮影してください（p.19）。なお、［**Avモード時のストロボ同調速度**］で同調速度を設定することもできます（p.44）。

照射角が自動設定されない

- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください（p.15）。
- 照射角の設定を〈A〉（自動設定）にしてください（p.29）。

●電波通信ワイヤレス撮影

ワイヤレス撮影ができない

- 電波通信機能を備えていない「スピードライト 600EX」では、電波通信によるワイヤレス撮影はできません。光通信によるワイヤレス撮影を行ってください。

スレーブが発光しない

- マスターを〈(•)〉〈MASTER〉、スレーブを〈(•)〉〈SLAVE〉に設定してください（p.52）。
- マスターとスレーブの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください（p.52～54）。
- スレーブがマスターの通信範囲内にあるか、確認してください（p.48）。
- カメラの内蔵ストロボは、電波通信ワイヤレス撮影のマスターとしては使用できません。

スレーブが発光しないことがある／意図せずフル発光することがある

- チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください（p.54）。
- マスターからできるだけ見通しの良い場所にスレーブを設置してください。
- スレーブ本体の正面部分をマスターに向けてください。

露出オーバーになる

- 発光グループA/B/Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください（p.63）。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈**ETTL**〉〈**Ext.A**〉に設定された複数の発光グループを主被写体に向けて発光させないでください（p.67）。

〈❗Tv〉が表示される

● シャッター速度をストロボ同調速度から1段遅くしてください（p.51）。

スレーブからのレリーズができない

● 2011年までに発売された、N3タイプのリモコン端子を備えた、E-TTL II/E-TTL自動調光対応のEOSカメラを使用して、スレーブからリモートレリーズを行うときや、連動撮影でスレーブに設定したときは、「レリーズケーブルSR-N3」（別売）が必要です（p.68、70、104）。

●連動撮影

露出ムラになる／標準露出にならない

● 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。発光させるストロボを1台にしたり、セルフタイマーを使って発光するタイミングをずらすことをおすすめします。

●光通信ワイヤレス撮影

スレーブが発光しない

- マスターを〈〉〈MASTER〉、スレーブを〈〉〈SLAVE〉に設定してください（p.78）。
- マスターとスレーブの通信チャンネルを同じ設定にしてください（p.78）。
- スレーブがマスターの通信範囲内にあるか、確認してください（p.76）。
- スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向けてください（p.76）。
- マスターとスレーブの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをマスターとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラのメニュー画面［**内蔵ストロボ機能設定**］でワイヤレス機能を設定してください。

マスターが発光する

- マスター発光OFF〈〉に設定されていても、光通信でスレーブを制御するため、マスターがわずかに発光します（p.79）。

露出オーバーになる

- 発光グループA/B/Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください（p.87）。

主な仕様

■型式

型式.................................... クリップオンタイプ
E-TTL II／E-TTL／TTL自動調光ストロボ

使用カメラ........................ EOS・Aタイプカメラ（E-TTL II／E-TTL自動調光）
EOS・Bタイプカメラ（TTL自動調光）

■発光部

ガイドナンバー .... 約60（照射角200mm設定時、ISO100・m）

照射角................................ 20～200mm（ワイドパネル使用時14mm）
・自動設定
（撮影画角と画面サイズに応じて照射角を自動設定）
・手動設定

バウンス........................... 上：90°、下：7°、左/右：180°

閃光時間............................ 通常発光：約1.8ms以下、クイック発光：2.3ms以下

色温度情報通信 .... 発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信

カラーフィルター .... 使用可能

■露出制御

露出制御方式..................... E-TTL II／E-TTL／TTL自動調光、外部調光オート／マニュアル、マニュアル発光、マルチ発光

調光連動範囲..................... 通常発光：約0.5～30m
（EF50mm F1.4 使用時・ISO100） クイック発光：約0.5～12m（min.）
約0.5～21m（max.）
ハイスピードシンクロ：約0.5～15m（1/250秒時）

調光補正............................ 1/3、1/2段ステップ±3段

FEB .... 1/3、1/2段ステップ±3段（調光補正との併用可能）

FEロック .... カメラの〈M-Fn〉ボタン、または〈FEL〉〈✱〉ボタンによる

ハイスピードシンクロ...... 可能
* 電波通信ワイヤレス撮影時は、2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時のみ可能

マニュアル発光 .... 1/1～1/128発光（1/3段ステップ）

マルチ発光........................ 可能（1～500Hz）
* 光通信ワイヤレス撮影時は1～199Hz

調光確認............................ 調光確認ランプ点灯

モデリング発光 .... カメラの絞り込みボタンによる

■ストロボ充電

充電時間............................ 通常発光：約0.1～5.5秒、クイック発光：約0.1～3.3秒
* 単3形アルカリ乾電池使用時

充電ランプ表示................. 赤色点灯：通常発光可能
緑色点灯：クイック発光可能

■AF補助光

対応AF.............................. 1～61点AFに対応（レンズ焦点距離28mm以上）
ファインダー撮影、およびライブビュー撮影／動画撮影時のクイックモードに対応

有効距離............................ 中央：約0.6～10m、周辺：約0.6～5m

■電波通信ワイヤレス機能

周波数................................ 2405MHz～2475MHz

変調方式............................ 1次変調：OQPSK、2次変調DS-SS

ワイヤレス設定................. マスター／スレーブ

通信チャンネル................. オート、Ch.1～15

電波通信ID........................ 0000～9999

スレーブ制御..................... 最大5グループ（A/B/C/D/E)、最大15台

通信可能距離..................... 約30m
* マスター～スレーブ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合
* 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある

光量比制御........................ 1：8～1：1～8：1、1/2段ステップ

スレーブ充電確認............. マスターの表示パネルに〈ϟ〉マーク点灯、スレーブのAF補助光投光部点滅、充電ランプ点灯

連動撮影............................ 可能

■光通信ワイヤレス機能

通信方式............................ 光パルス

ワイヤレス設定................. マスター／スレーブ

通信チャンネル................. Ch.1～4

スレーブ制御..................... 最大3グループ（A/B/C）

通信可能距離..................... 屋内：約0.7～15m、屋外：約0.7～10m（正面時）
マスターに対して左右±40°、上下±30°

光量比制御........................ 1：8～1：1～8：1、1/2段ステップ

スレーブ充電表示............. スレーブのAF補助光投光部点滅、充電ランプ点灯

■カスタマイズ機能

カスタム機能..................... 18種
パーソナル機能................. 7種

■電源

本体電源............................ 単3形アルカリ乾電池 4本
* 単3形ニッケル水素電池、リチウム電池使用可能
発光回数............................ 約100～700回
* 単3形アルカリ乾電池使用時
電波通信ワイヤレス
撮影可能時間..................... 連続約9時間
* マスター発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時
光通信ワイヤレス
撮影可能回数..................... 約1500回
* マスター発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時
節電機能............................ 約90秒放置で電源OFF
* スレーブ設定時：60分
* 電波通信ワイヤレスマスター、連動撮影時：5分
外部電源............................ コンパクトバッテリーパックCP-E4使用可能

■大きさ・質量

大きさ................................ 約79.7（幅）×142.9（高さ）×125.4（奥行）mm
（防塵・防滴アダプターを除く）
質量.................................... 約425g（ストロボ本体のみ、電池別）

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

ガイドナンバー（ISO100・m）

通常（フル）発光／クイック発光

照射角（mm）	14	20	24	28	35	50
通常（フル）発光	15	26	28	30	36	42
クイック発光	マニュアル発光の1/2〜1/6と同じ					

照射角（mm）	70	80	105	135	200
通常（フル）発光	50	53	58	59	60
クイック発光	マニュアル発光の1/2〜1/6と同じ				

マニュアル発光

発光量	照射角（mm）					
	14	20	24	28	35	50
1/1	15	26	28	30	36	42
1/2	10.6	18.4	19.8	21.2	25.5	29.7
1/4	7.5	13	14	15	18	21
1/8	5.3	9.2	9.9	10.6	12.7	14.8
1/16	3.8	6.5	7	7.5	9	10.5
1/32	2.7	4.6	4.9	5.3	6.4	7.4
1/64	1.9	3.3	3.5	3.8	4.5	5.3
1/128	1.3	2.3	2.5	2.7	3.2	3.7

発光量	照射角（mm）				
	70	80	105	135	200
1/1	50	53	58	59	60
1/2	35.4	37.5	41	41.7	42.4
1/4	25	26.5	29	29.5	30
1/8	17.7	18.7	20.5	20.9	21.2
1/16	12.5	13.3	14.5	14.8	15
1/32	8.8	9.4	10.3	10.4	10.6
1/64	6.3	6.6	7.3	7.4	7.5
1/128	4.4	4.7	5.1	5.2	5.3

B タイプカメラとの組み合わせ

スピードライト600EX-RT/600EXとBタイプカメラ（TTL自動調光に対応したEOSフィルムカメラ）を組み合わせたときに、使用できる機能と使用できない機能について記載しています。

Bタイプカメラで、スピードライト600EX-RT/600EXを自動調光で使用すると、ストロボの表示パネルに〈**TTL**〉と表示されます。

Bタイプカメラで使用できる機能

- TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- FEB
- マニュアル発光
- マルチ発光
- 後幕シンクロ
- 外部調光マニュアル
- 光通信によるワイヤレスストロボ撮影
  - マニュアル発光
  - マルチ発光

Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II／E-TTL自動調光
- FEロック
- ハイスピードシンクロ
- 外部調光オート
- 電波通信によるワイヤレスストロボ撮影
- 光通信によるワイヤレスストロボ撮影
  - 自動調光撮影
  - 光量比制御
- モデリング発光

安全上のご注意

下記注意事項は､あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解して製品を正しく安全にお使いください。

⚠ 警告　下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
  - ・ 本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
  - ・ 指定以外の電池や変形した電池の使用、充電、ショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入。
  - ・ ＋－を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の違う電池の混用。
- 電池や付属品は、お子様の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。（電池の液で胃腸が冒される恐れがあります）
- 電池を廃却する時は、テープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等の異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。
- 車の運転者等に向けてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する時は1m以上離れてください。
- ストロボ発光部を手でおおったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
- 外部ストロボを長時間使用しない時は、電池を抜いて保管してください。機器の故障、汚損の原因となります。
- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害の原因となります。
- カメラは幼児の手の届かない所に置いてください。誤ってストラップを首に巻きつけると、窒息することがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- 飛行機内・病院で使用の際は、航空会社・病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。

⚠ 注意　下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり､包んだりして使用しないでください｡熱がこもりケースが変化し､火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください｡火災や健康障害の原因となることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください｡けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。

- レンズやレンズをつけたカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電の原因となることがあります。

故障・不具合・破損の際は、お買い上げ店または弊社修理受付窓口にご連絡ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

索　引

英数字

あ

か

さ

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00
土・日・祝日 10：00～17：00
（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。

※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。

※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos-d

この使用説明書に記載しているカメラ、アクセサリーは、2012年1月時点のものです。それ以降に発売されたカメラ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。

CPA-J004-003